

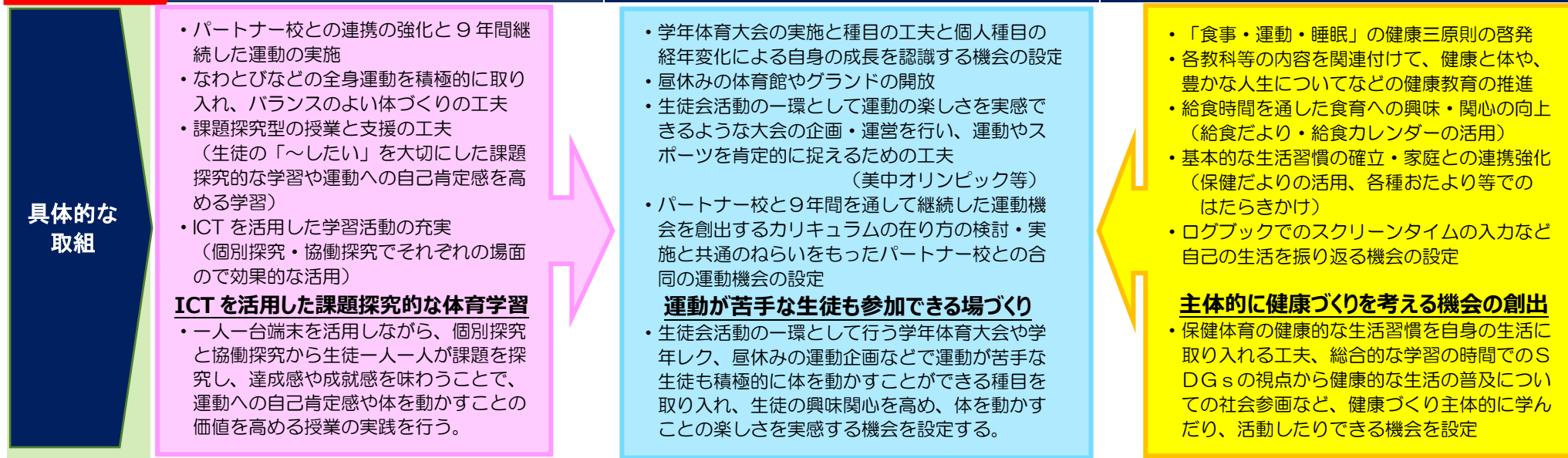
令和8年度「健やかな体」育成プログラム

学校番号：33001

学校名：美香保中学校

	令和7年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査 結果	分析
体力・運動能力 <男子>	○長座体前屈は全国平均を下回っているものの、札幌市の平均と同程度である。 ●全ての項目において、全国・札幌市の平均を下回っている。特に、上体起こし、20mシャトルラン、反復横跳びは差が顕著である。	ほとんどの生徒が運動を肯定的に捉えていたり、保健体育の授業を楽しんでいると感じているが、女子において、運動が嫌いであり1週間の総運動時間が少ない生徒がやや多い。また、男女とともに学校の運動部や地域のクラブ活動に所属していない生徒は、全国・札幌市よりも顕著に多く、体力・運動能力を向上させるためには、保健体育の授業や授業以外での運動機会を今まで以上に創出すること、体育を中心として運動への興味を高め、学校外でも運動しようとする意識をもたせることが必要である。 「できる・できないだけで比較されなかったら」「できなかったことができるようになったら」保健体育の授業が楽しくなると感じている生徒が多く、引き続き、個々の課題づくりを大切に授業を展開していく。また、保健で学習したことが、運動、食事、休養及び睡眠の改善につながっていない生徒が多く、学校全体での健康的な生活習慣への意識を高める必要がある。
体力・運動能力 <女子>	○反復横跳び、立ち幅跳びは全国平均を下回っているものの、札幌市の平均を上回っている。20シャトルランは全国平均を下回っているものの、札幌市の平均と同程度である。 ●握力、上体起こし、長座体前屈、50m走、ハンドボール投げは全国・札幌市の平均を下回っている。特に、上体起こし、50m走、ハンドボール投げは差が顕著である。	
運動・スポーツへの意識、運動習慣	○週の運動時間が420分以上の割合は、男子は全国・札幌市の平均を下回っているが、60～419分と合計した割合は、男女とも全国・札幌市の平均を上回っている。運動やスポーツをすることが好き、やや好きと回答した生徒は、男女ともに全国・札幌市と同程度である。 ●保健体育の授業が楽しくない、あまり楽しくないと回答した生徒は、男子は全国・札幌市の平均より少ないが、女子は多い。今後どのようなことがあれば、今より保健体育の授業が楽しくなるかの質問に対し、「できる・できないで比較されなかったら」という回答が多い。	

三つの取組	①体育・保健体育等の授業の充実	②授業以外で子どもの運動機会を創出する取組	③子どもが自ら健康の保持増進を図る取組
-------	-----------------	-----------------------	---------------------



○パートナー校との連携し、スケート学習の継続的な実施と地域のインストラクターによる指導の充実を図る。
○全国体力・運動能力・運動習慣等調査の調査結果、学校独自のアンケート結果の分析から、生徒の状況を適切に捉え、PTA 集会やおたよりなどで生徒自身、保護者に生活習慣の課題とリスクをフィードバックし、学校と家庭が一体となって改善を図る。
○小中一貫した教育として、生徒主導の楽しみながら体を動かす機会や生活を見直し機会を9年間の地域の教育として位置付けを図る。

